学校だより

翔　　空

№４４　平成２４年　３月１２日（月）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、**希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願い**を込めて、翔空の碑ができた。

ご卒業おめでとうございます！

～私の好きな名言を卒業生に贈ります～

平成２３年度の卒業式（喜久田中学校の第６５回卒業証書授与式）は、明日行われます。３クラス７９名の卒業生がこの学舎を巣立つことになります。きっと一人一人の生徒が数限りない思い出を胸にこの学校を離れて行くのです。部活動が中学校生活の大部分を占めきたた生徒。友だちとの毎日の会話を楽しんで過ごした生徒。勉強にいそしみ念願の目標を達成した生徒。生徒会活動に汗を流した生徒。それぞれが３年間分の思い出をアルバムにしっかりとして卒業します。これからも、いろいろんな試練、世の中のきびしい壁にぶつかることが多いことと思います。しかし、どんな時にでも自分の夢達成をめざして突き進んでほしいと考えています。そんな卒業生の皆さんに、私から次の名言を贈ります。

なせば成る　為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり

◇　**上杉鷹山（うえすぎようざん）は**、J・F・ケネディ元アメリカ大統領やビル・クリントン元大統領に「もっとも尊敬する日本人政治家」と言われた江戸時代の米沢（現山形県米沢市）藩主です。誰もが知ってる、「なせば成る為さねば成らぬ何事も」の名言を残しました。その心得とするところは、「人が何かを為し遂げようという意思を持って行動すれば、何事も達成に向かうのである。ただ待っていて、何も行動を起こさなければ良い結果には結びつかない。結果が得られないのは、人が為し遂げる意思を持って行動しないからである。」というものです。

私にとって、常に勇気を与え、鞭を打ってくれる座右の銘となっています。気がゆるんでいたり、困難なことから逃げようとしている時、この名言を思い出し頑張ってきました。結局のところ、自分の未来を開いたり塞いだりするのは、自分自身の行動でしかありません。卒業生に限らず生徒の皆さんには、安易に楽な道を選ぶのではなく、自分の成長にとって「価値ある選択」を常に選んでほしいと願っています。

卒業生の皆さんは、まだ１５歳です。「人生８０年」と言われる時代です。あと６５年間をどのように過ごすのでしょうか。一人一人の今後の大いなる飛躍を期待しています。

［今年度は、特別の思いが残る１年でした。］

本日、卒業生も含め全生徒に保護者宛の案内文をお送りしました。中身は、時期的には少し早いのですが、「離任式の案内」です。

今年度もまたこの時期が来ました。しかし、今年度は特別の思いが強く残る１年となりました。昨年８月１日には、東日本大震災のため４ヶ月遅れで退職及び転出等の人事異動が県内で一斉に実施されました。

本校では、４月の異動も含め６名ほど入れ替わりがありました。そして、今回さらに数名の異動があります。１年間の間に２回の異動がなされるのは、過去に例がありません。しかし、これも避けられないことです。ちなみに、講師の方は、例年３月２７日か２８日で勤務が解かれます。それに併せて、今回は、３月２８日朝９時より、本校体育館にて離任式を開催します。何卒ご理解願います。

もう一点、遅ればせながら、昨日で東日本大震災発生よりちょうど１年が経ちました。被害に遭われ亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに未だ被災している方々へお見舞いを申しあげます。

”仰げば尊し我が師の恩♪”